



## 第15回ちばBasic and Clinical Research Conferenceが開催 されました

千葉大学医学部では令和4年2月3日に、みのはな記念講堂とZoomとのハイブリッド形式で第15回ちばBCRCを開催しました。

ちばBCRCでは学生に「大学の医学研究」の側面をお伝えしています。さらに、スカラーシッププログラム（研究室配属）で得た成果を学生が発表するセッションもあり、有志の学生事務局員が本会の企画、運営にも取り組んでいます。

当日の参加者は学生378名、教員・来賓等28名でした。

学生座長の司会で行われた学生発表は、研究内容の深さばかりでなく「どのように伝えるか」という面でも工夫されていました。

研究室紹介は、小児病態学 濱田洋通教授、公衆衛生学 尾内善広教授の講演でした。特に両教授がテーマとしている川崎病に関しては、臨床・基礎両面から掘り下げたお話を伺うことができました。

松原久裕医学部長の心のこもったご講評、スカラーシップ賞・千葉医学会奨励賞授与、吉原俊雄先生からのみのはな同窓会長賞の表彰が続きました。また、3年次のポスター発表の中からスカラーシップ優秀ポスター賞が表彰されました。

最後は徳久剛史先生（千葉大学前学長）の座長による、平野俊夫先生（国立研究開発法人量子科学技術開発機構理事長）の特別講演でした。IL-6を発見されたことで著名な先生ですが、その多難な研究過程や研究への熱意は多くの学生の胸を打ちました。

（文責：坂本）



BCRCでの発表学生に送られる  
みのはな同窓会長賞



スカラーシップ賞の受賞式



平野先生の特別講演